



護衛艦と掃海艦2隻同時公開 学生が艦艇勤務を体感



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、8月3日（土）と4日（日）、「第72回清水みなと祭り」に合わせて清水港日の出埠頭（静岡市）に入港した海上自衛隊の護衛艦「はるさめ」と掃海艦「ひらど」の2隻を同時に見学できる特別公開を実施し、両日合わせて26人の高校生や大学生などが参加した。

参加者は2つのグループに分かれ、交互に両艦を見学。「ひらど」では、食堂で海上自衛隊の編成や掃海任務、海上自衛官の階級や各職種の説明を受けた後、乗員の寝室や浴室といった居住区、艦内のさまざまな装備を見学。最後に、日常生活でも役立つ「ロープワーク」を体験した。

一方「はるさめ」では、甲板に備えたミサイルや搭載しているSH-60K哨戒ヘリコプターをはじめ、艦周辺を見渡すことのできる艦橋やエンジン出力の制御を行う操縦室を見学。まさに操縦室で勤務する「機関員」を目標としている学生から「どんな素質が必要ですか」との問いに、乗員からは「素質は関係ないよ。みんな最初は初心者。一から教えてもらえるから大丈夫」とのアドバイスとエールが送られた。

学生たちは、任務の異なる2隻の艦艇を同時に見学できたこの貴重な機会に、海上自衛隊の幅広い仕事や艦艇での勤務に理解を深め、不安を払拭していた様子だった。

静岡地本は、今後も自衛官の働く現場を実際に見学できる機会を設け、学生に職業としての自衛隊を意識してもらえるよう務めていく。

清水港開港120周年を陸・海・空自衛隊が共演して祝福 清水みなと祭り



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、8月3日（土）と4日（日）、清水港（静岡市）において行われた「清水マリノフェスタ」に協力し会場を盛り上げた。

これは、清水港開港120周年を記念した「清水みなと祭り」の一環で、連日30度を超える暑さであったものの、両日も多くの市民や観光客が訪れた。

静岡地本は、装備品の展示協力を県内外の陸・海・空自衛隊の部隊に依頼。陸上自衛隊駒門駐屯地と板妻駐屯地（ともに御殿場市）からは「16式機動戦闘車」と「高機動車」が、航空自衛隊浜松基地（浜松市）からは「ベトリオットミサイル」が集結したほか、海上自衛隊からは長崎県佐世保を母港とする護衛艦「はるさめ」と神奈川県横須賀を母港とする掃海艦「ひらど」が寄港し、2隻同時に艦内の一般公開を実施するなど、3自衛隊が一堂に会して共演した。

4日（日）は、清水港上空に航空自衛隊静岡基地（焼津市）の「T-7初等練習機」と、岐阜基地（岐阜県各務原市）の「F-15戦闘機」「F-2戦闘機」が飛来し、日頃の厳しい飛行訓練の一部を披露したほか、浜松基地の「UH-60J救難ヘリコプター」が湾内において災害派遣を想定した救難活動の一部を披露した。また、陸上自衛隊第1音楽隊（東京都練馬区）が岸壁で優雅な演奏を披露し、来場者にひと時の安らぎを届けた。来場した中学生は「戦闘機の雄姿がすごくて、体と心にジーンときた」などと話し、清水港で暑い夏休みの1日を満喫していた。

一方、静岡地本も岸壁に広報ブースを設置、「営業部長・しずぼん」や「静岡地本イメージキャラクター・1等海尉駿河葵」も登場、「自衛官になりませんか」と採用志願を常時受け付け中であることをPR。自衛官希望の高校生から「炎天下でもキビキビと動いている自衛官をみて、自分も一緒に働きたいと思った」との声を聞くことができた。

静岡地本は、今後も地元からの熱い要望に積極的に協力して、地域の更なる活性化に貢献していく。